

■今のあなたが考える「良い会社」はどんな特徴がありますか？（複数回答可）

※回答抜粋

- ・経験年数にかかわらず、スキルアップにつながるような新しい仕事を任せてもらえる（61.8%）
- ・仕事を通じて、自分が将来やりたい事や目指すべき方向がみつけれられる（52.9%）
- ・部署や部門内で上司や同僚みんなの一体感がある（47.1%）

これらの結果から、入社後に『良い会社』の特徴に対して“ギャップ”を感じた方がいると推測できます。では、この“ギャップ”は、どのようにすれば埋めることができるのでしょうか？

私自身も経営者として悩む中、いろいろな方の経営方法を学ぶ機会があり、たくさんの成功事例と失敗事例を目にすることができました。

成功事例の中で発見できたのが、社長と社員との間での共通の言葉が必要ということ。社長は、自分が考えていることや思っていることについて、社員が理解していると勘違いしています。社員からすれば、社長はこの会社を将来どうしたいのか、自分たち働く社員の将来をどう考えてくれているのだろうか、と不安になるときがあります。いくら社長が会議の席などで話しても、社員にとって安心できるものではありません。

そこで、社長の考えている会社や社員の将来を文章にして伝えるということが最も効果的であるということが分かりました。結局、採用がうまくゆかないのも、途中で辞めてしまうのも、社員からすれば「私はこの会社において良いのだろうか」という不安があるからなのです。この不安を取り除いてあげるにはどうすればよいでしょうか。

それにはまず、会社の将来ビジョンとして、自分たちは何者で、どういうお客さまを相手に、どのような商品を、どの市場で販売してゆくのかということを考えて書き、何よりもここにいる社員の皆さまが安心して長く働けるように選択肢を用意し、教育方法、評価方法も明示します。将来も不安に思うことなく居続けていただけるように、社長の社員に対する将来の考えを書きおこすことがとても大切なのです。

これは、いわゆる就業規則や賃金規程などの規制

に関わるものとは異なり、あくまで将来に向けて、こうしたい、ああしたいという想いを描く「経営計画書」です。現時点では実現できていないことでも、近い将来叶えられるよう努力してゆく姿勢を見せることで、社長と社員が一体となって同じ方向に向かって仕事ができるようになります。

経営計画書の効能はいくつもあって、特に先ほど述べたように人に関する面においては効果靚面（てきめん）です。また事業承継の現場でも、先代の大事にしていることと後継者のやりたいことをミックスして書くことにより、最高の「経営者の引き継ぎ書」となります。

人の問題がクリアになれば、売上アップは簡単です。全社一丸となって経営計画書に書いた営業方針に従い、全社員で突き進むことができるのですから。そこまで経営計画書に書いてあれば、銀行の融資も楽になります。この経営計画書をそのまま銀行担当者に渡すことで、銀行担当者はその会社のことがよく分かり、行内稟議にもあげやすくなります。

このように、経営計画書というものは、実は経営の悩みに効く万能薬なのです。社長が作って終わりではなく、社員と共有してさらに活用してこそ、その効果を発揮します。経営計画書が「魔法の書」と言われる由来はこれです。まずは A4 サイズの用紙 1 枚からで OK。ぜひ作ってみませんか。

（税理士 宮本 泰三）

宮本氏の
事務所 HP
はコチラ
から→→



「きぎょう
講習会」
の開催レ
ポートは
コチラか
ら→→

